

チューリップの花芽分化状況について(8月8日現在)

令和8年8月12日
経営普及課
(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要3品種のデータを紹介します。

1 供試球根

農業総合研究所園芸研究センター本場(砂壤土)産球根

品種(系統)	掘取日	調査サイズ	初期乾燥	貯蔵
プレルジューム(T)	6月10日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
イルデフランス(SL)	6月10日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
メリーウィドー(T)	6月10日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵

2 花芽分化の状況

- (1) 現時点で3品種の花芽分化段階は、平年に比べ1～2段階程度早く進んでおり、ノーズ長は同3週間以上早く伸長している(表1、図1)。
- (2) 品種別の花芽分化段階は、プレルジュームでは雌ずい分化期(G2)～柱頭分化完成期(G3)に達しており、平年比2週間程度早い。イルデフランスは調査球のすべてが柱頭分化完成期(G3)に達し、同2週間程度早い。メリーウィドーは内雄ずい分化期(A2)～雌ずい分化期(G2)で、同3週間程度早い(表1、図1)。
- (3) 平均ノーズ長は品種により3.4～7.0mmで、いずれの品種も平年と比べて3週間以上早く伸長している(表1、図1)。
- (4) 本年は6・7月ともに高い気温となったため、花芽分化のタイプは、6年連続の「障害発生型」に当てはまるものと推測される(図3)。促成切り花栽培では、ブラインド、奇形花等の花器形成障害の発生に注意が必要である。

3 年次別りん片含水率(7月10日定期調査)

花芽分化開始条件の一つであるりん片含水率は、メリーウィドーで57.3%、プレルジュームで55.5%、イルデフランスで56.9%と、いずれの品種も平年に比べてやや低く、水分の抜けは良い(図2)。

4 今後の技術対応等

- (1) 花芽分化の進展は、今後の気温等によって変動が予想されるため、促成切り花栽培に向けた冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理のない計画とする。
- (2) 近年、夏季の猛暑が常態化していることから、年内切り花出荷を予定している球根では、調整等の準備が整い次第、中温処理(冷蔵庫内で20℃涼温管理)を行うことが望ましい。その際は、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

5 具体的データ

添付ファイル「T260808data(花芽)」参照

※ 次回の生育情報は、8月14日調査のチューリップ花芽分化(第7報(最終))をお知らせする予定です。